



あらゆる福島の内側へー

福島映像祭 2020

会場：ポレポレ東中野 / Space&Cafeポレポレ坐 主催：OurPlanet-TV 共催：ポレポレ東中野

2020年9月19日(土) ▶ 9月25日(金)



<http://fukushimavoices.net/fes/fes2020>

上映作品

会場：ポレポレ東中野

※映画の上映はいずれも15:00~となります。舞台挨拶は裏面タイムテーブルをご確認ください。



コールヒストリー (2019年/89分/日本/Blu-ray)

上映日
9/19(土)・9/24(木)

制作・撮影・編集・作品提供: 佐々木友輔
脚本: 佐々木友輔、菊地ゆき / 朗読: 菊地ゆき / 音楽: 田中文久

福島県の一帯に〈声〉と呼ばれる都市伝説がある。ふとした時、知らない誰かに声をかけられ、他愛もない会話をする。話しているあいだは気づかないが、後になってからはたと気づく。「さっきまで話していた人はヒトではなかった。私はいま〈声〉を聞いたのだ」と……。フィクショナルなようで作家本人の言葉のような不思議な声が、福島風景と伝説を移ろう。

風の電話 (2020年/139分/日本/DCP)

上映日
9/20(日)

監督: 諏訪敦彦 / 脚本: 狗飼恭子、諏訪敦彦 / 音楽: 世武裕子
出演: モトーラ世理奈、西島秀俊、西田敏行(特別出演)、三浦友和、渡辺真起子、山本未來、占部房子
配給: ブロードメディア

17歳の高校生ハルは、東日本大震災で家族を失い、広島に住む伯母の家に身を寄せている。ある日、自分の周りの人が全ていなくなる不安に駆られたハルは、あの日以来、一度も帰っていない故郷の大槌町へ向かう。広島から福島を経て、岩手までの長い旅の途中、彼女の目にはどんな景色が映っていくのだろうかー。



©2020 映画「風の電話」製作委員会



©Jyalya Films

春を告げる町 (2019年/130分/日本/DCP)

上映日
9/22(火・祝)・9/25(金)

監督・撮影: 島田隆一 / 編集: 秦岳志 / 整音: 川上拓也 / 音楽: 稲森安太己
出演: 渡邊克幸、新妻良平、帯刀孝一、松本重男、松本文子、藤沼晴美、
福島県立ふたば未来学園高等学校演劇部 / 配給: 東風

東日本大震災の発生直後から全町避難を余儀なくされ、東京電力や自衛隊の前線基地となった福島県双葉郡広野町。本作が描くのは、こつこつと日々の暮らしを築いていく人びとの営み。この土地で新たに生まれ、すくすくと育っていく子どもたちの物語。被災体験をモチーフに演劇をつくりあげる高校生たちの青春。広野町を流れるいくつもの時間が交差し、重なりあい、やがて未来をかたちづくっていく。

■ 短編プログラム ■ 上映日 9/21(月・祝)・9/23(水) ※「ビデオレタープロジェクト」「飯館村に帰る」「Afterimage」は三本立てでの上映となります

ビデオレタープロジェクト

～フクシマ ブエノスアイレス～ (2020年/22分/日本/Blu-ray)

監督: 鈴木光 & フランカ・マルファティ / 作品提供: 鈴木光

日本の映像作家鈴木光と、アルゼンチンの映像作家フランカ・マルファティによるビデオレター。コロナ禍、福島に滞在していた鈴木光は、2011年に被災地を訪れたことを思い出しながら夢についてフランカに尋ねる。フランカからの幻想的な返答に対して鈴木が映し出すのは、福島風景の中に佇む自身の姿、力強く歩く女性の後ろ姿、色彩豊かな福島夏の。



飯館村に帰る (2019年/55分/日本/Blu-ray)

監督・作品提供: 福原悠介 / 出演: 島津信子

東日本大震災による原発事故の影響で、思いもよらず避難しなければならなかった福島県飯館村の人びと。避難指示が解除され、6年以上続いた仮設住宅での暮らしから、村に帰る選択をした村民たちは、かつての村の様子や帰村後の暮らし、村への想いを語る。語りを聞き、身ぶりを捉えた映像の記録。

Afterimage (2019年/30分/日本/Blu-ray)

監督・撮影・編集・作品提供: 大浦美蘭 / 音楽: HASAMI group
ロケ協力: 網澤秀晃、鈴木彩夏、青木龍一郎、沼能奈津子、福岡英子

2019年、福島県浪江町に四人家族で住んでいた一軒家があった。震災以降、家主は帰らず、間もなく解体されることが決まっていた。この街では時間の止まった建物たちが毎日姿を消していく。HASAMI groupの音楽とともに、変わり始めた街の景色とそこで生きる人々を映し出していくドキュメンタリー。



イベント

会場：Space&Cafe ポレポレ坐およびオンライン

※[A]会場でのイベント参加と[B]オンライン参加のふたつの参加方法があります。いずれも事前予約が必要です。

9/19 (土)
18:30 - 20:30
開場18:00

上映&トーク

原発事故に一番近いリアルに迫る ふたりの女性ジャーナリストを招いて

福島第一原発事故に向き合った男たちの声を丹念に拾った書籍『ふくしま原発作業員日誌 イチエフの真実、9年間の記録』と『孤塁―双葉郡消防士たちの3・11』。この2冊が今年、「講談社本田靖春ノンフィクション賞」を受賞した。著者の片山夏子さんと吉田千亜さんはこの9年間、福島に通い詰め、現場に密着してきた。原発事故に一番近い場所で、リアルに迫ったおふたりをゲストに招き、それぞれのまなざしに写った世界をお聞きする。



片山 夏子 (東京新聞記者)

大学卒業後、化粧品会社の営業、ニートを経て埼玉新聞で主に埼玉県警の取材を担当。中日新聞社入社後、東日本大震災翌日から東京電力などを取材。同年8月から主に作業員の取材を担当。連載記事「ふくしま作業員日誌」が「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」大賞受賞。



吉田 千亜 (フリーライター)

大学卒業後、出版社勤務を経てフリーライター。東日本大震災後、原発事故の取材を続けている。著書に『ルポ母子避難―消されゆく原発事故被害者(岩波新書)』『その後の福島―原発事故後を生きる人々(人文書院)』近著に『孤塁―双葉郡消防士たちの3・11(岩波書店)』。

ゲスト

片山 夏子 (東京新聞)
吉田 千亜 (フリーライター)

聞き手

白石 草 (OurPlanet-TV)

[A] 会場チケット
定員30人【1,500円】



[B] オンライン
定員80人【1,200円】



9/20 (日)
18:30 - 20:30
開場18:00

上映&トーク

地元テレビ局の現場から 現役記者と見るローカルニュース

福島県外では見る機会のない福島のローカルニュースを上映し地元メディアの報道現場に焦点を当てる。原発事故からまもなく10年を迎える中、地元テレビ局は何を取材し、どう伝えているのか、テレビユー福島の記事記者、木田修作さんをゲストにお話しを伺う。※木田さんはオンラインでの参加となります



木田 修作 (テレビユー福島記事記者)

青森県出身。大学卒業後、TBSの記事記者として政治部や社会部に所属。15年に退社し、福島県いわき市で冊子の発行や執筆活動、アートフェスティバルなどに関わる。18年にテレビユー福島に入社し、報道部記者。17年にノンフィクション「熱源〜いわき市民ギャラリーとその時代」で第40回吉野せい賞準賞。「自主避難者の住宅提供打ち切りをめぐる国の関与を明らかにするスクープ等」で、第8回日隅一雄・情報流通促進賞特別賞。

ゲスト

木田 修作
(テレビユー福島記事記者)

聞き手

岩崎 貞明
(「放送レポート」編集長)

[A] 会場チケット
定員30人【1,500円】



[B] オンライン
定員80人【1,200円】



9/21 (月・祝)
18:30 - 21:00
開場18:00

市民部門上映&トーク

わたしが伝える福島

市民部門に寄せられたビデオの中から3作品を上映。それぞれの作品の制作者、関係者をゲストに作品に込めた想いを聞く。

上映作品

「紡ぐ兄弟 震災の記憶と人々の想い」(2020年/16分)



■制作:前田穰司

東日本大震災で地元(宮城県山元町)が被災し、実家の旅館を失った兄弟。東北に残り支援物資を被災地に配る兄。一方福岡県に家族とともに避難した弟は、原発事故後の避難の権利を求めて国と東電に訴訟を起こしている。離れていても、共通するのは根底にある故郷への想い。

「それでも種をまく2011」(2011年/24分)

「それでも種をまく2019」(2019年/22分)



■制作:国際有機農業映画祭

福島第一原発事故は福島や周辺の有機農家を苦境に追い込んだ。その地に留まり農業を続けた農民。新しい地へ移住し、その知識と技術を若い人たちに伝える農民。共同で測定器を購入し放射能を測る農民。事故直後の2011年と、8年を経た2019年、農民たちの姿を追った。

「fine(フィーネ) 2-2-A-219」(2020年/10分)



■制作:中筋純

被災家屋の解体が進む福島県浪江町。カメラは一軒の解体現場に密着する。撃ち抜かれる壁、破られるガラス、へし折られる大黒柱一。家族の思い出が詰まった「家」が、番号を振られた「解体物件」になる不条理を写し込む。

ゲスト

制作者のみなさん

聞き手

下村 健一
(白鷗大学特任教授/
元TBS報道キャスター)

[A] 会場チケット
定員30人【1,500円】



[B] オンライン
定員80人【1,200円】



【重要】イベントのご参加方法について

イベントは[A]会場での参加と[B]オンライン参加のふたつの参加方法があります。いずれも事前予約が必要です。ご予約はお早めをお願いいたします。それぞれお申込先、お問い合わせ先が異なりますのでご注意ください。

[A] 会場チケット:定員30人【1,500円】(三回券使用可)

当日現金でご精算。予約で満席になった場合は当日券の販売はいたしません。

●イベント・会場チケットお問合せ

ポレポレ坐 TEL: 03-3227-1445/polepoleza@co.email.ne.jp

[B] オンラインチケット:定員80人【1,200円】(三回券使用不可)

事前決済が必要です。予約受付は9月17日(木)23時までとなります。

●イベント・オンラインチケットお問合せ

福島映像祭事務局 TEL: 03-3296-2720/ffmf@ourplanet-tv.org

タイムテーブル

9/19 (土)

15:00 映画「コールヒストリー」(地下劇場)

18:30 イベント「原発事故に一番近いリアルに迫る」(1Fポレポレ坐&オンライン)

9/20 (日)

15:00 映画「風の電話」(地下劇場)

18:30 イベント「地元テレビ局の現場から」(1Fポレポレ坐&オンライン)

9/21 (月・祝)

15:00 映画「短編プログラム」(地下劇場)★鈴木光監督舞台挨拶

18:30 イベント「わたしが伝える福島」(1Fポレポレ坐&オンライン)

9/22 (火・祝)

15:00 映画「春を告げる町」(地下劇場)★島田隆一監督舞台挨拶

9/23 (水)

15:00 映画「短編プログラム」(地下劇場)★福原悠介監督舞台挨拶

9/24 (木)

15:00 映画「コールヒストリー」(地下劇場)

9/25 (金)

15:00 映画「春を告げる町」(地下劇場)★島田隆一監督舞台挨拶

★ = 上映後、舞台挨拶あり!

料金

《映画・イベント共通》
三回券 3,600円

* 開催前から最終日まで販売

* 映画鑑賞・イベント(会場参加)でご使用可

* イベントにオンラインで参加いただく場合はご使用いただけません

映画

当日：一般1,500円／シニア1,200円／大・専・障害者1,000円／高校生以下700円

■ 当日整理番号の受付が必要となります ■ 満席の際はお入り頂けない場合もございます

■ 感染予防のため劇場の座席数は通常の半数に減らしています。

■ 3日前より前日18時まで入場予約を受け付けております。QRコードから予約フォームにお進みいただき名前、電話番号等必要事項を入力ください。精算・発券は当日になります。



イベント

[A] 会場チケット：定員30人【1,500円】

お問合せ：03-3227-1445 / polepoleza@co.email.ne.jp (ポレポレ坐)

[B] オンラインチケット：定員80人【1,200円】

お問合せ：03-3296-2720 / ffmf@ourplanet-tv.org (福島映像祭事務局)

会場

東京都中野区東中野 4-4-1ポレポレ坐ビル

映画上映：地下(映画館)

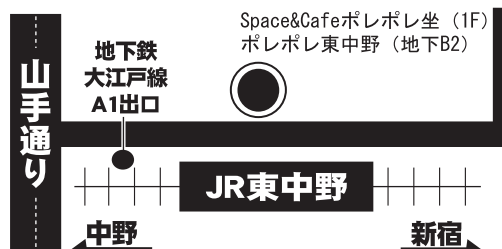
ポレポレ東中野 TEL 03-3371-0088

<http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

イベント：1F(カフェ)

Space&Cafe ポレポレ坐 TEL 03-3227-1445

<http://pole2za.com/>



JR東中野駅西口北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線A1出口より徒歩1分